

早稲田大学政治学研究科

## 博士学位申請論文審査報告

博士学位申請者 樋口 喜昭

論文題目 「日本における放送のローカリティ」

論文書式 A4 横書き (40 字×30 行)、目次 7 頁、本文 273 頁、  
文献 14 頁、資料 22 頁、注釈 23 頁

受理決定日 2019 年 4 月 17 日

### 審査委員

主査 土屋礼子 早稲田大学政治経済学術院教授 (歴史社会学)  
副査 瀬川至朗 早稲田大学政治経済学術院教授 (ジャーナリズム論)  
副査 小林宏一 東京大学名誉教授 (社会情報学)  
副査 音好宏 上智大学文学部教授 (メディア論)

最終口頭試問実施日 2019 年 7 月 21 日 (13:00～15:00)  
於 3 号館 915 号室

## 1. 論文の構成

本論文は、序章および第1章～第7章から構成されている。

### 序章

- 0-1 背景～なぜ「放送のローカリティ」を問うのか
- 0-2 目的と方法
- 0-3 本論文の構成
- 0-4 時代区分
- 0-5 使用する史料

### 第1章 「放送のローカリティ」へのアプローチ

- 1-1 「放送のローカリティ」とは何か
- 1-2 「放送のローカリティ」に関連した先行研究
- 1-3 「放送のローカリティ」をどのように問うのか

### 第2章 戦前・戦中期の「放送のローカリティ」

- 2-1 I期（1922-1928）：ラジオ放送の開始
- 2-2 II期（1928-1934）：地方局の誕生
- 2-3 III期（1934-1941）：組織改正後から太平洋戦争勃発まで
- 2-4 IV期（1941-1945）：太平洋戦争期
- 2-5 小括

### 第3章 日本型「放送のローカリティ」の形成

- 3-1 V期（1945-1951）：放送の民主化とローカリティ
- 3-2 VI期（1951-1960）：ローカル放送の開局
- 3-3 小括

### 第4章 日本型「放送のローカリティ」の変容

- 4-1 VII期（1960-1986）：ローカル放送の拡大期
- 4-2 VIII期（1986-2000）：多メディア化
- 4-3 IX期（2000-2011）：デジタル化
- 4-4 小括

### 第5章 県域免許をめぐる放送の従属と独立

- 5-1 放送組織の地域的特徴

- 5-2 テレビジョン免許をめぐる紛争の事例
- 5-3 県内でのメディア集中化がみられた山形県の事例
- 5-4 小括

## 第 6 章 考察

- 6-1 制度から見た「放送のローカリティ」
- 6-2 組織から見た「放送のローカリティ」
- 6-3 番組から見た「放送のローカリティ」

## 第 7 章 結論

- 7-1 戦前・戦中期の 3 つの「放送のローカリティ」
  - (1) 開局初期に存在した放送のローカリティ
  - (2) 中央集権的放送ネットワークの中で求められたローカリティ
  - (3) 非常時における放送のローカリティ
- 7-2 戦後の 3 つの「放送のローカリティ」
  - (1) 開局初期に存在した放送のローカリティ
  - (2) 中央集権的放送ネットワークの中で求められたローカリティ
  - (3) 非常時における放送のローカリティ
- 7-3 「放送のローカリティ」の変容過程

今後に向けて

あとがき

参考文献・参考サイト・資料・注釈

## 2. 論文の概要

本論文は序章及び七つの章から構成されている。

序章では、日本における放送のローカリティが、放送または番組の地域特性(local characteristics)や、番組に対する聴取者や視聴者の主観的な意識としての地域特性(local mindedness)を表す言葉として、特に1960年代から70年代にかけて頻繁に使われてきたことが指摘されている。また、放送というメディアが公共的な資源である電波帯域を利用し大きな社会的な影響力を有したために、送り手である放送組織や番組内容に対する規範的な論議においてローカリティの在り方が常々問われてきたこと。そして現在も、技術や産業構造の変化に伴う放送制度の見直しにおけるひとつの論点として、放送と地域との結びつきはどうあるべきか、地域に貢献する放送とは何か、といったローカル放送のあり方をめぐる議論が行われてきた経緯をまとめ、メディア研究、放送制度を対象とした研

究、地域メディア研究、あるいは地域社会学における研究などでの先行研究を整理した上で、放送のローカリティそのものを対象とした研究が少ないこと、また、放送のローカリティを歴史的な経緯や、成立過程を含めて包括的に論じた研究がないことが問題点として指摘されている。従って本論文は、日本における放送のローカリティを理念と実態の両側面を歴史的に明らかにすることを目的に、制度、組織、番組内容について、文献とインタビュー調査に基づく実証的方法による通時的な研究を目指す旨が述べられている。

本研究の対象とする時期は、戦前・戦中を4期、戦後を5期に区切られ分析されている。具体的には、戦前・戦中期のⅠ期（1922-1928年）は放送の胎動期で、東京、大阪、名古屋放送局が日本放送協会となり、各地に地方局が開局するまで、Ⅱ期（1928-1934年）は拠点局が開局した1928年以降、日本放送協会の機構改革によって統制が強められた1934年まで、Ⅲ期（1934-1941年）は機構改革から太平洋戦争開戦まで、Ⅳ期（1941-1945年）は開戦から終戦までである。戦後期のⅤ期（1945-1952年）は終戦から講和条約によってGHQによる占領が終了するまで、Ⅵ期（1952-1960年）はNHKと民間放送の二元体制が確立し民間放送が各地に広がるまで、Ⅶ期（1960-1986年）はローカル・テレビ局の開局によってテレビがメディアの中心となり系列化が進行した時代、Ⅷ期（1986-2000年）は、四局の民放の開局（全国四波化）が目指された時期から民放によるBSデジタル放送が開始されるまで、Ⅸ期（2000-2011年）は、その後、地上デジタル放送の移行完了までである。

このような時期区分の下に、第二章から第四章までは時系列による変化を詳述し、第五章で具体的な事例を補足し、それらの記述に基づき第六章でその結果得られた知見が以下のように整理されている。すなわち制度面では、放送のローカリティは、戦後日本の放送制度のなかで重要な理念とされたが、戦前から通底する行政手法による免許方針や、地方紙や自治体を中心とした運営主体による地域権力が踏襲され、日本型の放送のローカリティとも呼べる実態を形成したこと、また戦後初期に形成されたローカリティに関わる放送制度は、部分的な制度改革を経ながらも、現在まで踏襲されてきたことが示された。

組織面では、日本放送協会においては、戦前・戦中の地方組織が戦後においても引き継がれ、各地のローカル番組は中央からの指導によって制作されていたが、戦後、民間放送が開局した際の諸条件により、民間のローカル局は、3つのタイプ（老舗型、第二勢力型、系列型）に分類できること、またそれらは、差異はあるが資本関係において、在京のキー局や全国紙との強い関係が見られ、放送局の独立性という点で、放送のローカリティの理念と実態に乖離がみられることが論証されている。

番組面では、ローカル番組を、その視点と主な聴取者・視聴者という二つの要素から四つのタイプに分類して分析が行われている。その結果、初期では、その物理的境界によって、地元からの視点で制作された地元向けの番組が存在したが、それらはネットワーク網が整備されるにつれて、徐々に見られなくなる一方で、全国からの視点で制作されたローカル番組が登場し、特に地元の素材を扱っているものの全国の視点で描かれた番組は、地元の視点で作られた地元向けの情報番組とは区別されるローカリティを有していること

が明らかにされた。

以上の分析を踏まえ、第七章では結論として、日本における放送のローカリティには、三つの異なる側面が存在することが明らかにされている。すなわち、(1)「開局の初期に存在した放送のローカリティ」、つまり、電波の聴取範囲という技術的・物理的限界が理由であったが、地元の制作による地元の人のための番組が放送された単純なローカル放送の実現とあってよいものである。これは、各地域の聴取者の嗜好に合わせた番組の提供によって特徴付けられる。(2)「中央集権的放送ネットワークの中で求められたローカリティ」は、戦前・戦中と戦後で異なって現れ、前者では、「郷土性」が国家による理念として、後者では、「民主化」の理念として強いられた。この二つは、国家からの指令として導かれたローカリティである。これに対して第Ⅶ期からは、全国ネットでの「商品」として消費されるローカリティに変容した。これは同じく「再埋め込み」としてのローカリティではあるが、新しいローカリティの発現と言える。(3)「非常時における放送のローカリティ」は、危機・災害時における地域集団を支える公共性を帯びたもので、戦前・戦中と戦後では異なって現れていた。戦前・戦中には、非常時の増産や国民の戦意高揚のためにローカリティが求められ、戦後は、災害時に必要不可欠な地域の「基本的情報」の担い手として、公共的側面から強調された放送のローカリティである。

上記のローカリティの三つの側面は、等しく存在していたわけではない。(1)は、開局初期に存在していたが徐々に見られなくなっていった。(2)は、度々求められることによって、消え去らずに新しいローカリティとして現れた。日本においては、特に1970年代にかけて地方の近代化に対する認識が変化したことによって、放送のローカリティが消え去るものから、生み出されるものへと捉え直された。(3)は、危機・災害が起こる度に表出し公共的側面から強調されるが、日常的には存在していない。本論文では、この変化の過程を、ギデンズの近代化理論に基づき説明を試みた。すなわち、(1)は、ローカルな脈絡から引き離されていく過程(脱埋め込み)であり、(2)は、ローカリティが度々現れ、再度埋め込まれる過程(再埋め込み)である。以上のように、日本におけるこれまでの放送のローカリティは、三つの側面を持ち、それは70年代を境に変容したが、消え去ることなく生産され続けるモダニティの一側面であることが示された。

### 3. 論文の評価

本論文は、日本における放送のローカリティの特徴と展開を、1922年から2010年にいたるまで、文献及び聞き取り調査に基づいて実証的に明らかにし、通時的に論じた研究である。本論文の意義は以下の三点にまとめられる。

第一に放送におけるローカル局・ローカル放送・ローカル番組あるいは放送の地域性・郷土色、コミュニティとのつながりなどをめぐる問題や議論を「ローカリティ」の名の下に包括的に展望し、ラジオ放送が開始した戦前から戦後、テレビ放送が始まり、衛星放送、ケーブルテレビなどが展開し、ネットによる配信が行われるようになった現在に至るまで

を初めて通時的研究としてまとめた点である。放送におけるローカリティの問題は、放送技術の変革やそれに応じた法制度の改正などの時々具体的な課題に伴って議論されてきており、その課題が解決されると議論が止み、忘れ去られてしまう傾向があった。本論文はそうした放送のローカリティをめぐる議論を跡づけて、独自の時代区分で整理するとともに、長期的に展望する基盤を築き上げたといえよう。

第二の意義は、日本放送協会や日本民間放送連盟などが発行した機関誌を中心に放送関係の文献を丹念に読み、技術に関する記述も含めて、あまり日の目を見てこなかった資料を用いて、それを基に作成した独自のデータを根拠として議論を展開し、高い実証性が認められる点である。また、こうした文献に加えて、放送関係者への聞き取り調査も実施した上で論述しており、ローカル放送の現場に食い入る調査が行われているだけでなく、それぞれの地方でばらばらに記録され伝承されてきたローカル局の歴史を整理し、比較できるように提示した点も重要である。

第三の意義は、それぞれの時代における放送のローカリティを、放送の制度・組織および番組という三つの面から分けて、その特徴と変遷を明らかにした手法である。これはローカリティの通時的な分析枠組みとして独自に考案されたものであり、時に理念的で抽象的な議論に陥りやすい放送のローカリティを、具体的な放送の実践と架橋するために、今後の議論における基本的な分析の枠組みになると考えられる。

最終口頭試験及び論文審査委員会では、審査委員より以下の点が指摘された。

第一に、本論文では各章が独立している傾向が強く、全体の論旨がわかりにくいこと、第二に、「ローカリティ」という用語が、戦前から現在までの長期間を論述するための包括的な用語となっているためか、定義がやや曖昧であること、第三に、制度・組織・番組という各面の間関係や連環が不明であり、また、時代的な変遷と三つの面の変化との有機的な関係が必ずしも明確でないこと、第四に、国家から離れた放送のローカリティ、米国基準から離れた放送のローカリティという、放送のローカリティの理念型が参照軸として十分に検討されていないこと、第五に、本論文で依拠したギデンズの近代化論には限界があり、21世紀のネット時代の放送のローカリティへの考察には不十分なこと、以上のような点が指摘された。

これらの指摘は、基本的には今後の出版や研究に向けての助言というべきものであり、論述の改善と補強によって対応できる範囲のものと考えられる。

#### 4. 結論

本論文は、日本における放送のローカリティについて、放送関係の機関誌を中心に多量の文献を丁寧に渉猟し、また聞き取り調査も加えて、戦前から現在に至るまでの通時的な分析を行った実証性の高い論文である。日本の放送史およびメディアの歴史的研究において、ローカリティをテーマとして、日本全体を対象にこのように長期にわたる通時的考察を行った研究は初めてといえよう。本論文は、メディアにおけるローカリティという問題

を提起し、新たなる議論の地平を開き、より一般的な理論を展開するための基盤を提供するとともに、メディアにおける公共性の議論の進展にも貢献するものである。審査員一同は、これらの学術的貢献を高く評価し、本論文を博士（ジャーナリズム）の学位を授与するにふさわしいものであると判断する。

2019年9月14日

土屋 礼子

瀬川 至朗

小林 宏一

音 好宏